

第2学年 道徳科学習指導案

平成30年10月31日（水）第5校時

- 1 主題名 あやまるときはゆう気がいるね 内容項目【A善悪の判断、自律、自由と責任】
- 2 ねらい 主人公に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、人としてしてはいけないことを理解し、よいと思うことを進んでするという判断力を育てる。
- 教材名 「七色のクジャク」（出典：「彩の国の道徳」（低学年）『きょうもげんきに』）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校第1学年及び第2学年の指導の観点は、「よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」である。これは、中学年の「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」とつながり、高学年へ「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること」へと発展する。さらに、中学校では「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと」として広がる。全体として、物事の善悪についての的確に判断し、自ら正しいと信じるところに従って主体的に行動することと、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関する内容項目である。

人間は誰もが弱い心をもっている。だからこそ、自分自身で善悪の判断をすることが重要である。自己の欲望や他者の命令などに依存せず、自らの意思で立てた規範に従って行動することが自律である。もし、仮に善悪の判断を誤った場合でも、その事実を認め、自身の言動を改める勇気をもつことがよりよい生き方の第一歩だと考える。

指導に当たっては、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を養うことが大切である。また、よいと思ったことができたときのすがすがしい気持ちを思い起こさせ、自分から進んでよいことができる意欲と態度を育てるようにする。また、身近な事例を踏まえ、人としてしてはならないことをしないことについては一貫した方針をもち、毅然とした態度で指導していくようにする。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、穏やかで優しい児童が多い。係や当番、班活動のリーダーを決める時は話合いを通して自然と互いに譲り合いをして決定できる。意見がぶつかり合って揉めることは少ない反面、周りに合わせて本当に自分が思っていることを表に出さない児童も少なくない。また、よいと思うことを自分から進んで行動に移すことが難しかったり、つい自己の欲望に負けて正しくないことをしてしまったりする児童もいる。

児童はこれまでに、道徳の授業において自分の気持ちや考えを伝え合えるように、役割演技やペアでの話合い活動を経験してきた。1年生では「うんどうぐつ」の教材において、「自分だったらどうするか」の視点で登場人物の立場に置き換えて話合いをした。また、2年生の1学期には、「メイとケンブ」の教材において登場人物の会話文を考え、良心に従ってよいことを行おうとする場面について役割演技をして学習をしてきた。発言に消極的だった児童が新学期に比べて、だんだん自分から発

表できるようになってきている。しかし、まだ恥ずかしさや不安、自信のなさが邪魔をして引っ込み思案になり、本音で語れない児童もいる。集団生活の中において、自分がよいと思うことを進んで行おうとする判断力を育成するために、児童に「善悪の判断、自律、自由と責任」について、以下のようなアンケートを実施した。

「善悪の判断、自律、自由と責任」に関する意識調査（実施日 平成30年9月 34名回答）

① 人として、してはならないことはどんなことですか。

- ・人を傷つけること
- ・ものをかくすこと
- ・盗むこと
- ・暴力
- ・いじめ
- ・犯罪
- ・嘘をつかない
- ・ルールを守らないこと
- ・悪口を言うこと

② じぶんはよいことと、わるいことがわかっているとおもいますか。

はい 31名 いいえ 3名

③ じぶんはいつでもよいことを考えてこうどうできていますか。

はい 25名 いいえ 9名

④ よいことをしたことがありますか。

はい 33名 いいえ 1名

⑤ どんなことですか。

- ・ダメなことをしている友だちに「ダメ」と言った。
- ・ものを拾ってあげた。
- ・ごみをきれいにした。
- ・友達を保健室に連れて行った。
- ・友達にやさしくしてあげた。
- ・お母さんの手伝いをした。
- ・決め事をしていたときに譲ってあげた。

⑥ それは、なぜですか。

- ・注意すればダメなことだと分かるから。
- ・困った人をあまり見かけないから。
- ・気持ちよく過ごせるから。
- ・友達が喜んでくれるから。

⑦ そのときはどんな気持ちでしたか。

- ・よい気持ち。よかった。
- ・心がポカポカした。
- ・嬉しい。自分も嬉しいな。
- ・ほっとした。
- ・褒められるかな。
- ・スッキリした。

⑧ 悪いと分かってもついやってしまったことはありますか。

はい 27名 いいえ 7名

⑨ どんなことですか。

- ・消しゴムのかすを床に捨ててしまうこと。
- ・廊下でおにごっこをして走ってしまった。
- ・階段を走ってしまった。
- ・悪口を言ってしまった。悪い言葉遣いをした。

- ・嘘をついてしまった。
- ・自分がいけないのに人のせいにしてしまった。
- ・友達に蹴ったりたたいたりしてしまった。
- ・やり返しをしてしまった。
- ・話を聞かないで友達としゃべってしまった。
- ・友達の作品を触ってしまった。

⑩ それはなぜですか。

- ・めんどくさいから。
- ・一人ぼっちがいやだから。みんなもやっているから。
- ・がまんできなかつたから。
- ・怒られたくないから。怒られると思ったから。
- ・ついイライラしてしまったから。
- ・ついふざけてしまったから。
- ・触りたいからつい触ってしまった。
- ・ストレスがたまっていたから。
- ・けんかをしていたから。

⑪ そのときはどんな気持ちでしたか。

- ・悪いことなのに。
- ・やってしまった。
- ・一人じゃないからいいや。
- ・わざとじゃないし、楽しいからいいや。

アンケート結果から、本学級の児童は、ほとんどの児童がよいことをしたことがあるが、自分自身の行為よりも、誰かのために何かをすることがよいことだという認識が強いことが分かった。また、よいことをすれば、母親や教師に褒めてもらえるからという理由を期待している児童も少なくない。しかしながら、やはり悪いと分かっているにもかかわらずつい悪い行いをしてしまう児童は多い。また、人としてしてはならないことが何かは理解しており、自分がよいことと悪いことの区別がついているという認識の児童が多い。しかし、ほとんどの児童がつい悪いことをしてしまった経験があることから、行動につながらずに自分自身の弱い心に負けてしまう実態が顕著に表れている。そこで、本時では、主人公の弱い心と良心の対立的な心の内を自分事として捉えられるように深く考えさせたい。そして集団生活の中で自信をもってよいことと悪いことが区別できる判断力を養い、行おうとする態度をさらに身に付けていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、図工が大好きでいつも仲良しのゆり子とみさが言い合いをしてしまった場面から始まる。ゆり子は、みさのきらきら色紙を隠してしまう。図工の時間に困っているみさを見ているゆり子のむねはドキドキと音を立てていた。しばらくして、みさは見事な色とりどりのクジャクの作品を作り上げた。ゆみさの出来上がった作品を見たゆり子はみさに謝り、打ち明けようとする話である。これまでの教材のように、第三者の言動を受けて自分がどう関わるか善悪の判断をするのではなく、本教材はゆり子自身の行いに対してどうすべきなのか心の内に葛藤があり、自分自身の心の問題に直面する話である。本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

① ゆり子がみさの自慢を聞いた場面。

ここでは、言い合いがもとになり、意地悪な気持ちでみさを見ているゆり子の思いに共感させる。

② みさの作った七色のクジャクの作品をゆり子が見た場面。

ここでは、作品を作り上げたみさの凄さに感心しながらも、みさのきらきら色紙を隠してしまった自分の良心と弱い心の葛藤を実感させる。

③ ゆり子があやまろうとする場面。

ここでは、ゆり子がなぜあやまろうとしたのか、その根拠を考えさせるようにする。

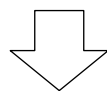
以上の理由から、本主題を設定した。

4 新和小学校の研究テーマとの関わり

自己の生き方についての考えを深め、よりよく生きようとする児童の育成
～仲間と共に高め合い、豊かな心を育てる道徳教育～

<仮説1>

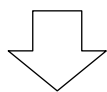
「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「体験的な学習」等、多様な方法で指導を行い、自分の考えを他者と伝え合う活動などを充実させ、児童が主体的に学ぶ授業を実践し、道徳ノートを活用、児童の変容が見取れる評価の工夫をすれば、物事を多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値にせまることができ、児童の豊かな心を育むことができるであろう。



仮説1に迫る手立てとして、役割演技を通して主人公の心の葛藤を実感させるようにする。また、主人公自身の良心と弱い心の両者の立場を体験させ、多面的・多角的な考えにつなげる。さらに、心情円を使うことで、自分の考える心の葛藤について視覚化して表現をし、主体的な学びの工夫を図る。そして、自分の考えと他者の考えとの比較を容易にできるようにする。また、話合いを通し、友達との意見と比べて、再度心情円で表すことによって自分の心の変容を視覚化し、ねらいとする道徳価値に迫らせたい。

<仮説2>

学んだことの振り返りが常時できる道徳環境の整備、他教科との指導の関連、仲間と共に高め合う場面の設定、家族との関連を図れば、児童の道徳性を養うことができ、児童の豊かな心を育むことができるであろう。



仮説2に迫る手立てとして、道徳の授業の足跡として学習内容や板書の写真を教室に掲示して、いつでも児童の目に触れられるようにする。週に一度の大切な道徳科の学習が掲示物を通してより身近に感じることができれば、他教科との指導の関連や教育活動全体を通じて行う道徳教育にも生かすことができると考える。また、学級通信でクラスの道徳的価値が高まった様子を保護者に伝え、連携を図るようにする。

5 展開

(1) 新和7(セブン) ※学習指導要領 指導方法の工夫より

イ発問の工夫

「なぜ~だろう」という分析的な発問をすることで、主人公を客観的に見て、主人公の心情や考えを明らかにし、多面的な思考へつなげられるようにする。ゆり子がみさへ謝ろうと考えた根拠を考えさせてねらいとする道徳的価値へ迫っていくようにする。

才動作化、役割演技など表現活動の工夫

心情円を使うことで自分事として考えを深め、心の動きを視覚化させて他者との違いに気づくことができるようにする。また、役割演技を通して互いの考え方や感じ方を伝え合い、他者理解をしながら自己理解を深められるようにする。

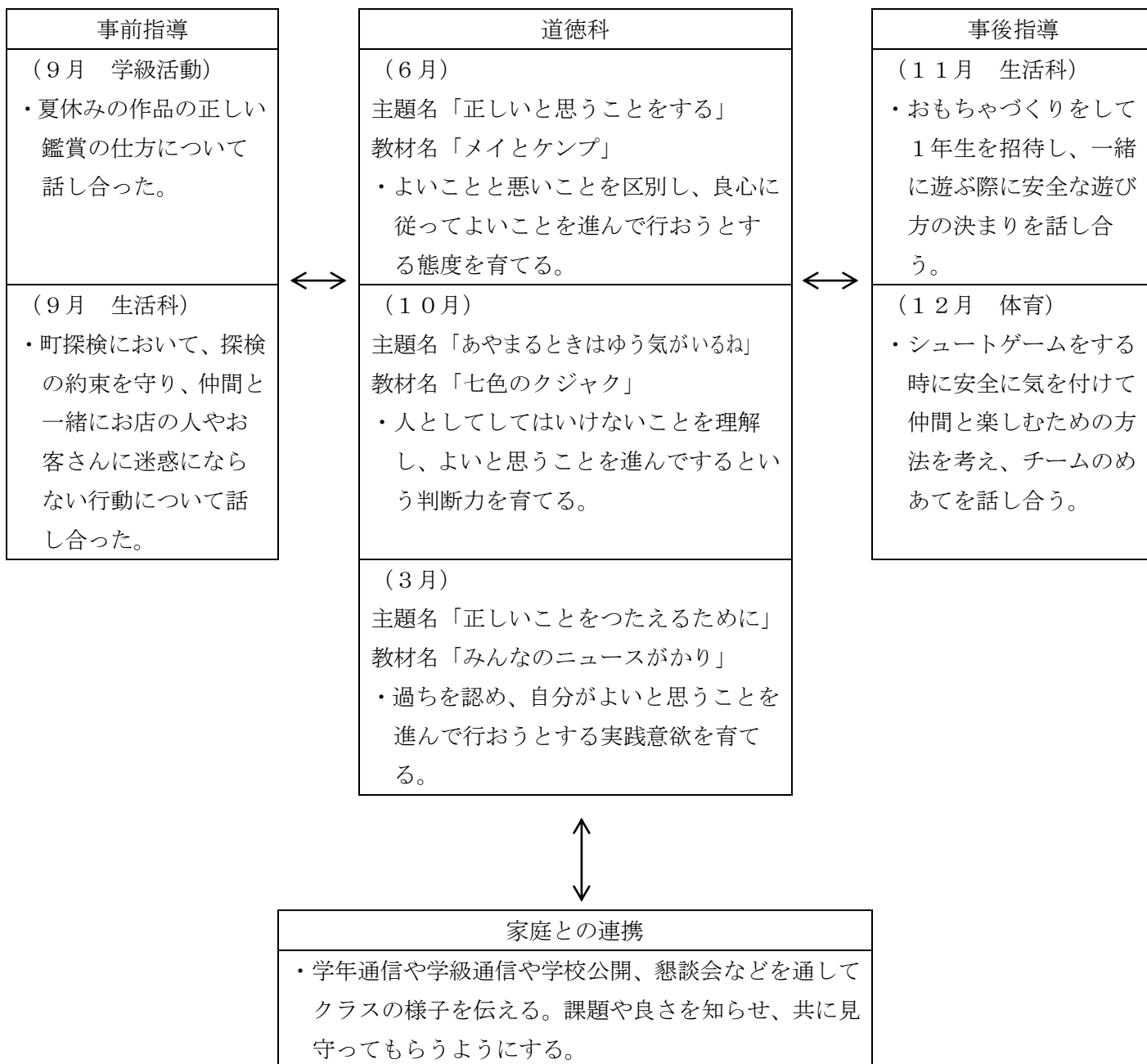
(2) 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	・予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点 ◆新和7 (セブン)	時間
導入	1 アンケートの結果を見て、自分の生活を思い起こす。 ・悪いと分かっているもついやってしまう場面について考える。	・廊下を走ってしまった。 ・嫌な言葉遣いをしてしまった。 ・嘘をついてしまった。	・身近な出来事を想起させ、ねらいとする道徳的価値に迫り、課題意識をもたせて学習の方向性を確認する。	3
展開	2 教材について条件・状況を知る。	課題 よいことをするためにはどんなところがひつようだろう？ 【登場人物】 ゆり子 (主人公) みさ 【条件・状況】 ・ゆり子とみさは図工が好きで仲良しだが言い合いをしてしまった。 ・ゆり子はみさのきらきら色紙を隠し、むねがドキドキ音を立てていた。 ・みさは困りながらもきれいなクジャクの作品を作り上げた。		5
	3 教材「七色のクジャク」の読み聞かせを聞き、ゆり子の心の変化を中心に話し合う。 (P 16 下段1行目まで) (1) どんな思いでゆり子はみさをじっと見つめていたのでしょうか。 補 隠すことはよいことでしょうか。 補 なぜゆり子はきらきら色紙をかくしてしまったのでしょうか。	・イライラ。 ・おもしろくない。 ・うらやましい。いいな。 ・困らせてやろう。	・教材は結末がわからないようにするため、最後まで読み聞かせをしない。 ・本当は仲のよい二人がけんかをしてしまった状況をおさえる。 ・羨ましさから相手を困らせてやろうという気持ちが働いていることに気づかせる。 ・隠すことは悪いことであることをおさえ、その上で隠してしまったゆり子の心情を考えさせるようにする。	3

展開	<p>(2) ゆり子はどんな気持ちでできあがったクジャクを見つけていたのでしょうか。</p> <p>補自分がみさだったらどう思うでしょうか。</p> <p>補怒られなければものを隠してもよいのでしょうか。</p>	<p>良心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【謝罪】悪いことをしたから謝らなきゃ。 ・【後悔】隠さなければよかった。 ・【反省】みさに、かわいそうなことをした。 ・【自律】かくすことはいけない。 <p>心の弱さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【弱気】今さら本当のこととは言えない。 ・【隠滅】だまっていればバレない。 ・【開き直り】仕方ない。 ・【他律】怒られる。 <p>心情円</p> <p>ピンク→良心 謝る 水色 →心の弱さ 謝らない</p>	<p>◆オ動作化、役割演技など表現活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むねがドキドキと音を立てていた時の心情と重ねて考えさせるようにする。 ・心情円を使い、ペアで話し合いをさせ、多様な考えを引き出す。 ・みさの立場に視点を変えて、色紙がなくて悲しい気持ちや困っている様子を想像させて相手の気持ちを考えさせるようにする。 ・ペアで良心の役と弱い心の役に分かれて役割演技をして両方の視点の立場からゆり子の気持ちを考えさせ、本音を出させるようにする。 ・「怒られる」という他律的な考えではなく、自律的な考えに引き延ばせるようにする。 ・話し合いをした後、もう一度心情円を使い、変容がある場合はそれに気づかせる。 <p>☆主人公に投影しながら考え、話し合いをしている。</p>	10
	<p>4 教材の後半の読み聞かせを聞く。 (P 16 下段 2 行目から最後まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜゆり子はあやまろうと考えたのでしょうか。 <p>補あなたがゆり子なら、みさに何と声をかけますか。 「みさちゃん、ごめんなさい。きらきら色紙は、わたしが・・・。」</p> <p>補謝ってみてどう感じましたか。</p> <p>補謝ってもらってどう感じましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心がすっきりするから。 ・悪い心の自分のままだが嫌だったから。 ・隠してしまったの。 ・本当にごめんなさい。 ・もう絶対にこんなことはしないよ。 ・許して。 ・謝ってよかった。 ・安心した。嬉しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆり子は自分の過ちを認め、自分からみさへあやまろうとした行動をおさえる。 <p>◆イ発問の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を考えさせて、ワークシートに書き、伝えるようにする。 ・みさに謝罪した時のゆり子の言葉の続きを考えさせるようにする。 ・ペアで両者それぞれの立場でどんな気持ちになるかを実感させるようにする。 	2 12

展開	<p>補 よいことをするためにはどんなところがひつようでしょうか。</p> <p>5 今までの自分自身を振り返り、学んだことをもとによりよい生き方を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・つよい心 ・よいかわるいか考える力 ・すっきりする心 ・弱い心にまけない心 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い心に打ち勝つ強い心で よいことをすることが大切だ。 ・だめなことはぜったいにしない。 ・人に言われてからではなくて、考えて自分から行動する。 ・本当によいかわるいかよく考えて行動する。 ・モヤモヤな心のままにしない 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に立ち戻り、道徳的価値に迫れるようにする。 ・書く活動を取り入れ、自分自身をじっくりと見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせるようにする。 <p>☆これまでの自分を振り返りながら人としてしてはいけないことを理解して、よいことをすすんで行う意義を考えている。</p>	7
終末	6 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値への意欲付けを図る。 	3

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 主人公に自分を投影しながら考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- 自分の生活を振り返り、人としてしてはいけないことを理解し、よいと思うことを進んでしようとする意欲を高めている。

だい21回 どうとく

七色のクジャク

ゆり子 みさ

よいことをするためには、どんなところがひつようだろう？

なかよし
いいあい

わるいこと
かくした

よわいところに
まけないところ
つよいところ

よいこと
かくさない
ごめんね

よわいところ

いまさら言えない
バレない
しかたない
おこられる

よいところ

あやまらなきゃ
わるいことをした
かわいそう
かくすことはいけない



まずい
どうしよう
ドキドキ



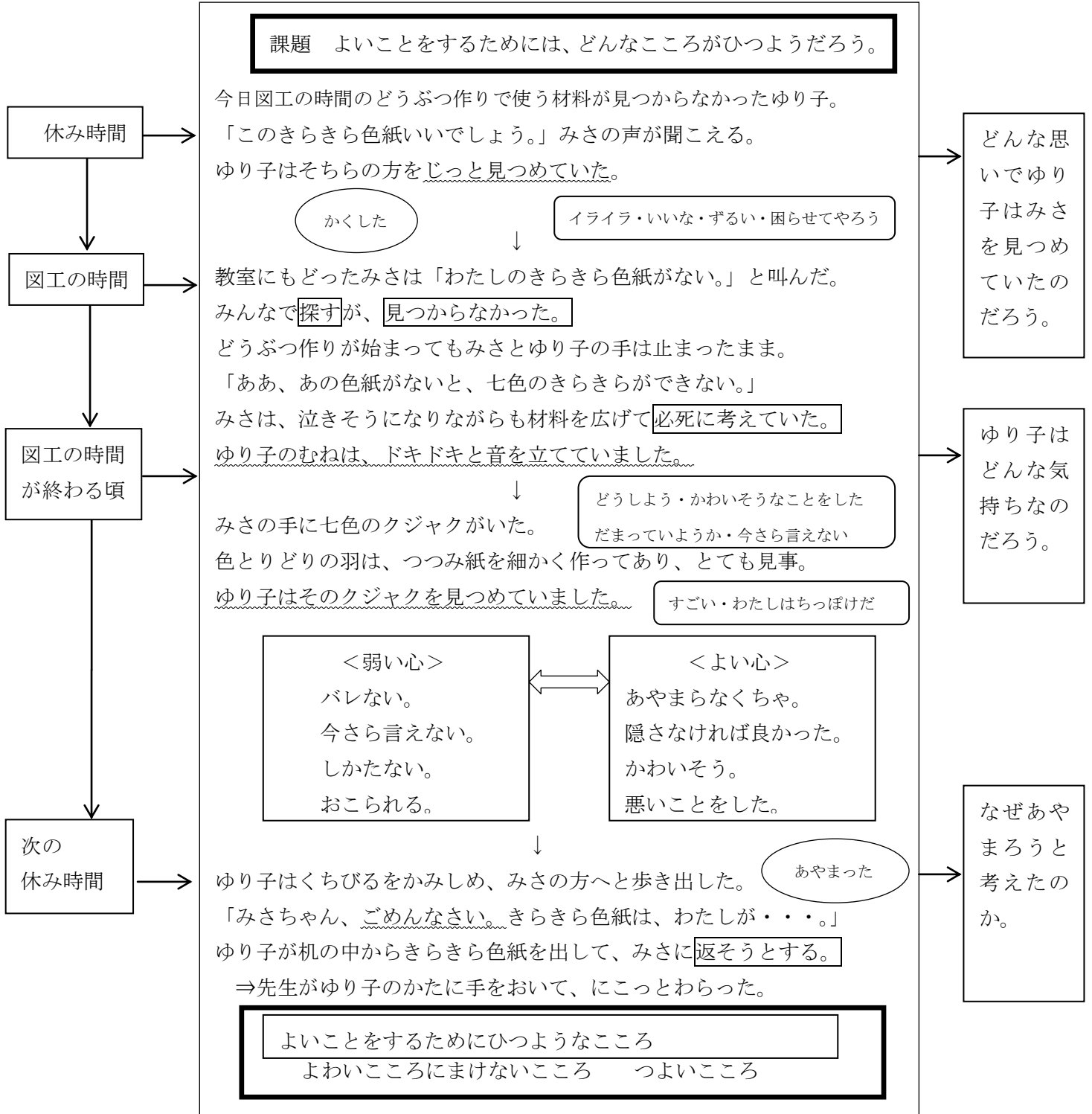
教材吟味表

【教材名・出典】「七色のクジャク」(出典「彩の国の道徳」(低学年『きょうもげんきに』))

【スタートの条件・状況(登場人物等)】(主人公 ゆり子)

- ・みさとゆり子は図工が大好きで、いつもは仲の良い二人は言い合いをしてしまった。
- ・気に入った図工の材料が見つからないゆり子はみさの声を聞き、きらきら色紙を隠してしまった。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話合いの柱など】



【ねらいとする人間像・内容項目[A 善悪の判断、自律、自由と責任]】

- ・ゆり子に自分を重ねて考え、話し合うことを通して、人としてしてはいけないことを理解し、よいと思うことを進んでしようとする児童。